

# 交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2016年6月17日

No.19

2016年度 夏季手当妥結！！

# 基準内賃金×1.5カ月

## 2016年度 夏季手当交渉最終報告

2016年度夏季手当交渉において、中央本部は第4回交渉以降、職場からの闘いを背景に会社の頑なな手当抑制姿勢をただし、要求の実現に向けた取り組みを展開してきました。

本日17時30分より夏季手当の最終交渉に臨み、席上会社は①平成27年度は国内総物流量は前年度を下回ったが全社を挙げた営業努力もあり、鉄道貨物輸送は伸びを示した。②中期経営計画2016の2年目として社員一人ひとりの積み重ねにより、鉄道事業部門の赤字は▲33億円と対計画6億円改善した。③今年度は景気の低迷が懸念される中で経費の増加も見込まれる。鉄道事業部門の黒字化に向けてこれまで以上に役員・社員が一体となって目標を達成したいとの考え方を示した上で、基準内賃金の1.5カ月分とする回答を示しました。

回答に対し中央本部は①収入未達の主な要因は経営陣の経営姿勢にある。そのことに組合員は疑問や不信感をもっている。②収入が厳しいと言う一方で、今年度収入確保に向けた決意が感じ取れない。このことから見ても経営陣に緊張感が感じられない。③これからは鉄道事業部門の黒字化に向けて組合員の苦労は続くが、組合員にだけ頑張れという話にはならない。経営陣はそのことを重く受け止めること。④職場を見れば要員不足や輪転資材の不足など十分な投資がされていない。今年度の目標達成に向けて「ヒト・モノ・カネ」への投資が必要不可欠であることを指摘し、昨年の夏の支給額を0.14カ月上回ったことや収入計画との乖離が大きい中で、組合員にその責任の転嫁を許さなかったことを確認し、妥結としました。

今次夏季手当獲得闘争は目前に迫った「参院選勝利に向けた闘い」とりわけ「たしろかおる応援プロジェクト」と結合した闘いでした。職場からの創意工夫した闘いによって、交渉を全力で支えていただいた組合員の皆さんに対して改めて感謝を申し上げます。今後もJR貨物改革の闘いを通じて組合員の職場と仕事と生活を守るとともに、参院選勝利に向けた闘いを全力で推し進めていこうではありませんか。中央本部はその最先頭で闘うことを明らかにし、夏季手当交渉の最終報告とします。

以上